

竹林の風

～ すべては学校のため すべては子どもたちのため ～

栃木県教育委員会事務局
河内教育事務所
令和6年6月28日
発行責任者 黒須親章
http://www.pref.tochigi.lg.jp/m51/
kawachi-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

第77号

教科の指導と生徒指導の一体化を図るために

学校生活の大半は授業です。その授業が児童生徒にとって楽しく、自己存在感を得られるものであるならば、児童生徒は進んで学び、自己指導能力を高めていくことにもつながります。

生徒指導提要（文部科学省）では、「授業は全ての児童生徒を対象とした発達支持的生徒指導の場であり、教科の指導と生徒指導を一体化させた授業づくりは、生徒指導上の4つの視点を意識した実践である」と示しています。そこで、「生徒指導の実践上の4つの視点」に関わる主な実践例を紹介しますので、授業を行う上での参考にいただければと思います。

(1) 自己存在感の感受を促進する授業

「授業に参加している」と実感できるようにする

- 児童生徒の実態を見取り、多様な学習状況や興味・関心に柔軟に応じることにより、どの児童生徒も分かる喜びが実感できるようにする。

「自分が必要とされている」と実感できるようにする

- 児童生徒のつづやきなどを積極的に取り上げ、考えを表現する機会を与えたり、思考を生かす場面を見通して授業を進めたりする。
- 互いの発言を最後まで聞いたり、誤答を大切にしたりする習慣を育成する。
- 協力して活動できる場を設定し、互いの考えや方法のよさに気付くようにする。

教師自身が一人一人を大切にする姿勢を示す

- 承認・賞賛・励ましなどを行い、自分を肯定的に捉える自己肯定感や、認められたという自己有用感を育む工夫をする。
- 発言しない児童生徒の状況も、ノート、作成物などから積極的に把握し、適切に支援する。
- 児童生徒の多様な個性を尊重し、一人一人の意見や考えを大切にする姿勢を率先して示す。

(2) 共感的な人間関係を育成する授業

「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる

- 「誰にでも失敗はある」「誰もがよさや弱さをもっている」という認識に立って、互いを尊重し合う人間関係づくりに努める。
- 一人一人が自由に発言できる雰囲気づくりに努める。
- 教師の意図と異なる考えも大切にする。

「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる

- 互いの発言や作品などから学ぼうとする態度の育成に努める。
- 互いに認め合い・励まし合い・支え合える学習集団づくりを、授業を通して促進する。
- 自分と異なる意見や感情も尊重し、なぜそう思ったか感じたりしたのか、互いに関心を抱き合うことができる授業づくりに努める。

(3) 自己決定の場を提供する授業

目標達成に向け、自ら考え、選択し、決定する力を育む

- 自分に合った課題を選択できるようにする。
 - 習熟の度合いや興味・関心に基づいて教材・教具を選択できるように提示する。
 - 課題解決のために使う情報や資料を多様に提示し、選択する機会を設ける。
 - 学習形態、活動内容、場所など課題解決のための方法を選択できるようにする。
 - 相手や内容に応じた表現方法を選択できるようにする。
 - 学習を振り返ることを通して、今後の学習課題や方法について選択できるようにする。
- ※ 自己決定の場の提供に当たっては、自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をすべきか」、主体的に問題や課題を発見し、目標を選択・設定して、その達成のため、自他を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力を育むという視点が大切です。

(4) 安全・安心な「居場所づくり」に配慮した授業

- 他者の人格や人権をおとしめる言動等を決して許さず、互いの個性や多様性を認め合い、安全かつ安心して自分らしく授業や学校生活が送れるような風土をつくる。

河内地区地域連携教員研修兼地域コーディネーター研修

6月4日（火）に宇都宮市立南図書館サザンクロスホールにて河内地区地域連携教員研修兼地域コーディネーター研修が開催されました。管内の公立学校地域連携教員や宇都宮市地域コーディネーター、上三川町学校支援コーディネーター等の総勢153名が一堂に会した本研修では、講師の宇都宮大学地域デザイン科学部コミュニティデザイン学科教授 石井大一郎氏によるファシリテーションのもと、『みんなで描く地域とともにある学校づくり』と題し、講話・演習を行いました。

1 「講話」

- 【学校と地域の連携・協働推進ハンドブック】を用いた地域連携教員、地域コーディネーター等の役割の説明
- 学校と地域が連携を深めるポイント
 - ・目標やビジョンを共有することが重要
 - ・熟議や対話が有効
- 連携の好循環を生み出すポイント
 - ・『結果の質』から改善を試みるのではなく、『関係の質』から見直すことが重要



〔参加者が得た新しい視点〕

- 地域連携教員、地域コーディネーターの双方の意識の隔たりをなくし、これまでにない話合いの場をつくる必要がある

2 「演習」

- ①同規模の小中学校ごとに実施した情報交換
学校と地域が連携・協働した実践例を互いに紹介し合うことで、自分たちのこれからの活動につながるヒントを得ることができました。
- ②中学校区ごとの「これからやってみたいこと」に関する協議
地域連携教員と地域コーディネーターがビジョンを共有する貴重な機会となりました。



参加者アンケートより

《地域連携教員》



学校と地域の協働を深めるための方策について検討しましたが、今まで行ってきた学校による情報の発信と学校公開に加えて、熟議を行う機会を設け、地域の方々の考えを傾聴することの必要性を学びました。

この地域連携での経験が、若い人たちの地域愛につながっているということを御講話から初めて知り、大切な活動であることを実感しました。地域コーディネーターと話をしながら、しっかり連携して取り組んでいかねばならないと感じました。



《地域コーディネーター》



学校が必要としていることを考えつかなかったことがあり、よりコミュニケーションをとることが必要だと感じました。今後の活動への意欲が高まりました。

初めてコーディネーターになりましたが、他地域の方々から情報を得られて、とても意義でした。自分でできる小さなことからやっていこうと思います。



研修後のアンケートでは、本研修で得られた成果を実践で生かそうとする声が多数ありました。学校と地域が連携・協働し、全ての人が教育の当事者となり、子ども、先生、保護者、地域住民など全員が幸せになる学校づくりをすることは人づくりであり、未来のまちづくりでもあることをそれぞれの立場で共有できました。

積極的に演習に御参加いただきまして誠にありがとうございました。